

Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド 21 プラス

名取市男女共同参画情報紙

プラス15号 2018年 3月

「男女共同参画社会」って何だろう？

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）

男女共同参画社会のイメージ図

男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会

職場に活気

- 女性の政策・方針決定過程への参画が進み、多様な人材が活躍することによって、経済の創造性が増し、生産性が向上
- 働き方の多様性が進み、男女がともに働きやすい職場環境が確保されることによって、個人が能力を最大限に発揮

家庭生活の充実

- 家族を構成する個人がお互いに尊重し合い協力し合うことによって、家族のパートナーシップの強化
- 仕事と家族の両立支援環境が整い、男性の家庭への参画も進むことによって、男女がともに子育てや教育に参加

地域力の向上

- 男性がともに主体的に地域活動やボランティア等に参画することによって、地域コミュニティが強化
- 地域の活性化、暮らし改善、子どもたちが伸びやかに育つ環境が実現

ひとりひとりの豊かな人生

仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現

特集 ▶▶▶ 若者にとっての「男女共同参画」とは

（名取市男女共同参画推進委員会委員と尚綱学院大学生による座談会）

- 夫婦で子育てしていこうと考えていますか？
- 昔は男性が家事や育児をする風潮ではなかったが、今はどのような認識ですか？
- 子供が生まれる前後における夫婦の役割について
- 今の社会環境を踏まえて「こうして欲しい」「こうしたい」という思いはありますか？
- 「男女共同参画」という言葉のイメージについて



若者が「男女共同参画」についてどのような考えを持っているか

今回は、名取市男女共同参画推進委員会委員8名と尚絅学院大生4名にお集まりいただき、テーマを「若者が『男女共同参画』についてどのような考えを持っているか」として座談会を行い、それぞれの世代の立場から率直に語っていただきました。司会進行は、名取市男女共同参画推進委員会の前田有秀委員長。

参加者

男女共同参画推進委員会委員

前田 有秀	委員長		
高橋 壽子	副委員長	星野 豊	委員
石山 光広	委員	只野 加奈子	委員
平栗 由紀子	委員	古山 いく子	委員
本同 成行	委員		

尚絅学院大学子ども学科3年

伊澤 みのり さん	羽川 晴香 さん
千葉 祐輔 さん	鈴木 綾太 さん



●委員長（前田）—今日は今年度のテーマである「若者が男女共同参画についてどのように考えているか」を子ども学科の学生、男女2名ずつの4名に参加してもらい、男女共同参画推進委員会委員と座談会を行います。最初に古山委員から「子育てについてどのように考えていますか」という質問です。

◆委員（古山）—子育ての質問についてですが、私の経験上、一人ではできない部分があったので二人でできればいいなと思っています。学生のみなさんは夫婦で子育てをされていてこうと考えていますか。

◆羽川—子供が生まれたり仕事をしながら子育てをしているのは大変だと思います。男性で育休を取っている人が少ないので、男性も休みを取りやすい環境が整っている社会であればいいと思いました。

◆千葉—女性だけに子育てを任せるのは大変だと思うのでしっかり協力していきたい気持ちがあります。また、保育関係の勉強をしているので活かしていきたいです。

●委員長—子ども学科で保育士を目指しているので男性も育児に関わりたいという思いが強かったです。それでは次に進みます。本同委員の「今の世の中が共働き社会である事や子育てや家事を分担していく社会だと実感していますか」という質問です。

◆委員（本同）—私の年代は「男は仕事、女は家庭」という世の中の中の風潮であり、その中で育っているのが男性が家事や育児をやるという状況ではなかったです。今の学生の皆さんの認識としてはどうなのか、お聞きしたいです。

◆伊澤—共働き、共働きではないに関わらず女性が家事をしていたり、育事をやっているイメージがあります。なかなか若いお父さんお母さんに会う機会がないので、今の世の中の中の状況が分からないのですが、私としてはまだまだ女性が家事や育児を行っているイメージがあります。

◆鈴木—私の両親も共働きなのですが、小さい頃を思い出してみると二人とも私の世話をよくしてくれた記憶があります。父は料理もよく作ってくれましたし、親元を離れるまではこれが普通なんだと思っていました。都会と田舎でも違いがあると思いますが、全体的に考えればまだまだ女性が家事や育児をしていると思います。

●委員長—ありがとうございました。次の質問に移ります。只野委員、平栗委員から「現役の主婦から伝えたい。もし、こんな状況になったとき、あなたならどうしますか」という内容です。

◆委員（平栗・只野）—学生のみなさんにお聞きしたいのは、子供がまだいない夫婦、共働きで、その生活に子供が生まれました。家事に育児が加わった生活に変わった時に家庭内における夫婦の役割がどのように変わると思われますか。もちろん想像で構いません。

◆鈴木—想像の世界ですが、子供が生まれる前に相手と役割分担について相談すると思います。そうすれば「なんで自分ばかり」ということにもならないと思うし、準備をしておけばいいと思いました。

◆伊澤—自分が好きなこと、やりたいこともあるし相手も同じようにあると思います。その状況の中でも子育てをし

ていかなくなくてはならないのでお互いに好きなことをする日を分けられたらいいと思います。父親、母親のどちらかに役割を振ることも大切かもしれませんが、それとはまた別に休日に家族みんなで出掛けたり過ごす日があってもいいと思います。家族団らんで過ごせる時間があればお互いに気分転換になると思います。

●委員長—ありがとうございました。それでは高橋委員の「男女共同参画に向けてどのようにしていきたいですか」「社会に出るにあたってどのようにしていきたいですか」という質問です。これまでの話の流れでもいろいろと出ましたがよろしく願いいたします。

◆副委員長（高橋）—社会の実情はいろいろとあって、みなさんもそれぞれ感じていると思いますが、今の社会環境を踏まえて「こうして欲しい」「こうしたい」という思いを聞きたいです。

◆千葉—男性の育休は上司が率先して取得すると周りも取りやすいと思うし、自分の意見が言えるような環境が望ましいと思います。より良い社会にするためにも企業等のよい取組みについては「こんなことしました」と、情報がどんどん広まればいいと思いました。

◆伊澤—男性には積極的に育休を取ってほしいです。だけど、今まで男性が育休を取る傾向は社会全体的に低いと思います。最近少しずつ男性も育休を取ろうという認識が出て、取得してる人も増えているけれど、職場ではなかなか男性が育休を取る受け入れができていない気がします。今まで男性が育休を取る社会ではなかったもので、その流れでやってきた人達にとっては「男性が育休？」となることは仕方がないと思うけれど、上の年代の人達には男性も育休が必要なことを理解してほしいです。

社会全体を変えるのはなかなか難しいとは思いますが、自分が働く会社では管理職の方に男女共同参画を理解してほしいし、働きやすい環境を整えてほしいです。

●委員長—最後に「男女共同参画の言葉に対するイメージ」についてです。「男女共同参画の言葉自体が分かりづらい」という意見もありますが、それについてどう思いますか。

◆千葉—「参画」という言葉を使っているのが、少し難しいイメージになると感じています。もっと柔らかい言葉だと分かりやすいです。例えば「協力」のようにみんなが分かる言葉で表現できればいいのかなと思いました。

◆羽川—今は大学生だから言葉の意味を理解できますが、小学生か中学生の頃の教科書で「男女共同参画」という言葉を初めて見た時に「えっ？さんかく？」となりました。「男女共同」はもちろん分かりますが「参画」の言葉が分かりにくいので、千葉君が言っていたように「協力」とか「社会活躍」の方が分かりやすいです。

もっと細かいことを言うと「男女」だと間にいる人、自分は男、女のどっちなんだろう、という人も世の中にはいると思います。トイレを例に挙げてみると、男、女の区別だけではなく「誰でも使えます」のように表示してあるトイレもあります。

「男女」という言葉で限定するのではなくて、もっといい表現があればいいなと思いました。



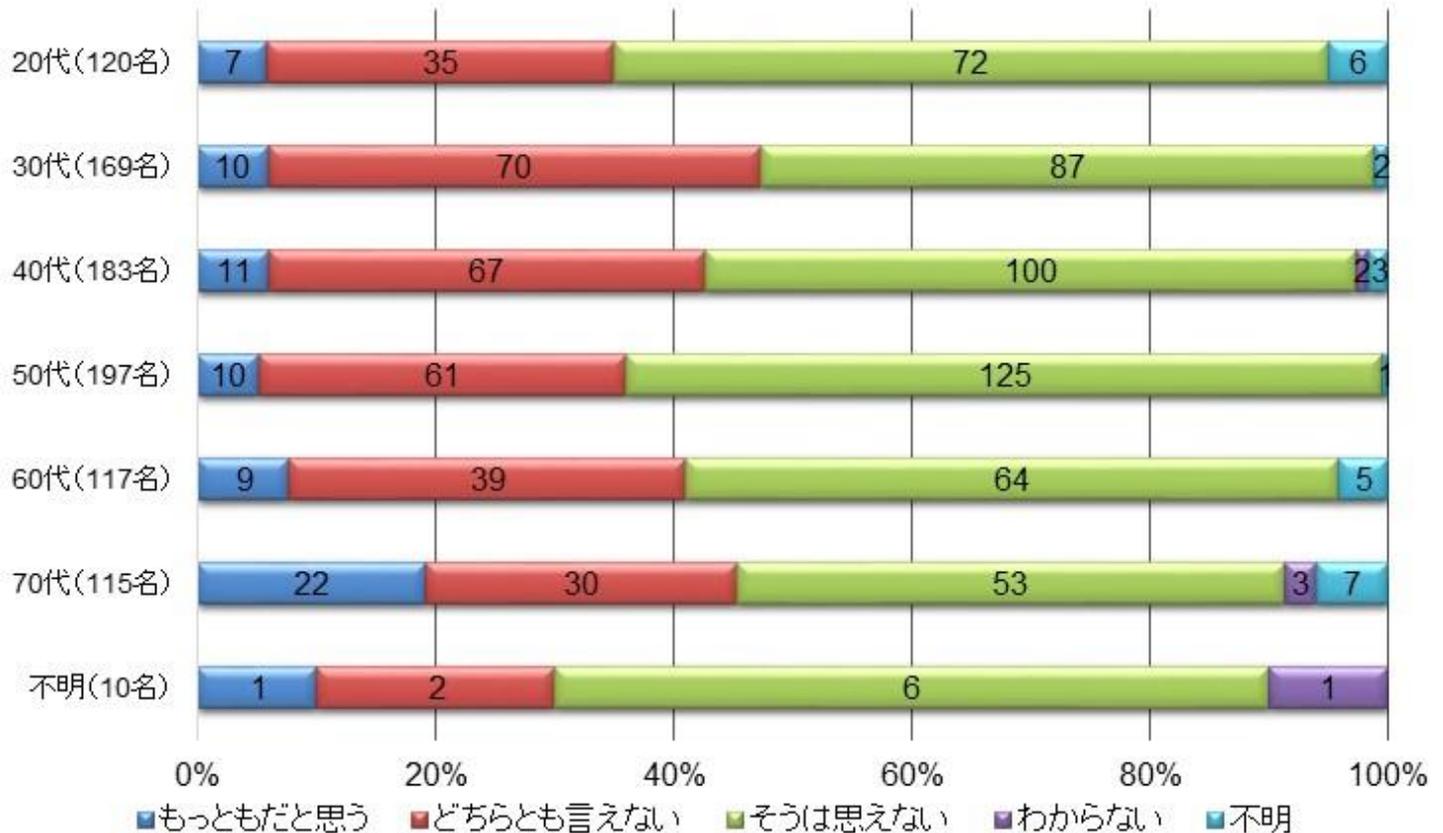
●委員長—今回、言われてみると私たちも普段なかなか「参画」という言葉を使わない気がしてきました。

「なるほど」と思ったのがLGBTの問題です。「男女」の言葉だけではない世の中になっているところでもありますので、ネーミングの問題もありますね。一億総活躍社会の方が分かりやすくていいですかね。この方がみんなで活躍する世の中という分かりやすいイメージが持てると思うので、ネーミングってすごく大事ですね。

※育休…育児休業（休暇）

「男は仕事、女は家庭」の考え方

名取市男女共同参画に関する市民の意識調査(平成23年度)



編集後記



今回の座談会は、20歳の若者たちと男女共同参画について語り合いました。保育者を目指す若者だけあって、性別を超えてお互いが協力して仕事や子育てをしていくべきであるという意見が随所に見られました。卒業後のビジョンとして、希望の仕事に就き、やがて結婚し、

子どもを授かり、そして夫婦協力して幸せな家庭を作っていく夢を真剣に語る姿に、とても温かい気持ちになりました。

H23年の名取市の調査によると「男は仕事、女は家庭」という考え方が、60歳代以下の方は70歳代の半分以下まで下がっており、今回の座談会の意見交換も踏まえると、確実に男女共同参画の意識が変わりつつあると感じます。男女や世代を乗り越え、誰もが活躍できる社会づくりを目指していきたいと強く思いました。

(文責：前田)



座談会の内容につきましては以下に掲載しています。

【名取市総務部 男女共同・市民参画推進室 男女共同参画推進委員会 男女共同参画情報紙】

http://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/soumu/danjiyo/node_1670/node_1672

〇この情報紙は市民で構成される委員会のみさんが直接取材し、原稿を作成しています。
情報紙に関するご意見・ご要望、また取り上げてほしいテーマなどがありましたら、下記までご連絡ください。

編集と発行

〇名取市男女共同参画推進委員会

この情報紙に関する問い合わせ先・事務局
〇事務局 名取市総務部 男女共同・市民参画推進室
TEL 724-7146 FAX 384-9030